株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこジャパン株式会社

〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

北海道支社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

東北支社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

東日本支社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

中部支社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

西日本支社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

九州支社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

20-05 012294702

(C) 2017 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。

KIORITZ

取扱説明書

エンジンポンプ

KEP25GM
KEP40GP
KEP50GP
KEP80GP

目次	頁
1.安全上の注意	1
2.各部の名称	3
3.仕様・性能曲線・外形寸法図	4
4.ご使用になる前に	7
5.使用方法	11
6.使用後の注意	12
7.故障と処置	13

⚠ 注意：安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書と同梱のエンジンの取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。

1. 安全上の注意

※　ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上正しくお使い下さい。

ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。

■表示内容を無視して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。	
⚠危険	人が死亡または、重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
⚠警告	人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。

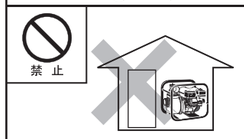
・・・・・この記号はしてはいけない「禁止」の内容です。

・・・・・この記号は必ず守っていただく「実行」の内容です。

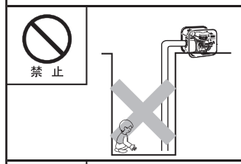
⚠危険



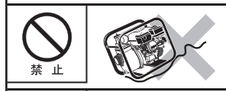
燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁。
燃料に引火、火災の危険があります。



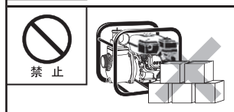
エンジンポンプを室内および換気の悪い所では運転しないで下さい。
エンジンの排気ガス中には、有害な物質が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。



エンジンポンプを井戸やくぼ地の脇などで運転される場合は井戸やくぼ地に入らないで下さい。
エンジンの排気ガスが井戸やくぼ地に流れ込み、 ガス中毒を起こす危険があります。



エンジンポンプを傾斜地で使用しないで下さい。
燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因となります。



マフラー付近に障害物を置かないで下さい。
火災や故障の原因となります。

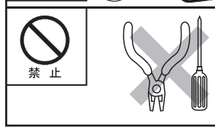
⚠警告



本取扱説明書を理解していない人は、ポンプの操作を行わないで下さい。

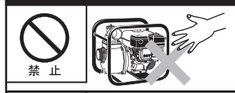


ポンプに幼児・子供が触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転して下さい。



修理技術者以外の人は、取説記載内容以外の分解や修理・改造は絶対に行わないで下さい。
異常動作してけがをする恐れがあります。

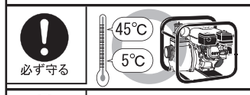
⚠注意



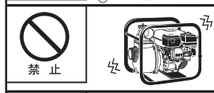
火傷の恐れがありますので、熱くなっているマフラーやエンジン各部をさわらないで下さい。



このポンプを清水または、農業用水以外に使用しないで下さい。
使用できないもの：飲料水・泥水・海水・灯油・軽油・重油・ガソリン・薬品・酸性／アルカリ性の液体等。



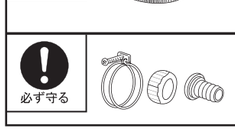
ポンプ使用液温度は 5℃以上 45℃以下の範囲で使用して下さい。範囲外で使用されますとポンプの破損につながります。



空運転（ポンプ内に水のない状態での運転）はしないで下さい。
ポンプ破損の原因になります。



吸入側ホースは必ずサクションホース（市販品）を使用して下さい。
使用口径・使用長さにあったホースをホームセンター・農機具店などでお買い求め下さい。



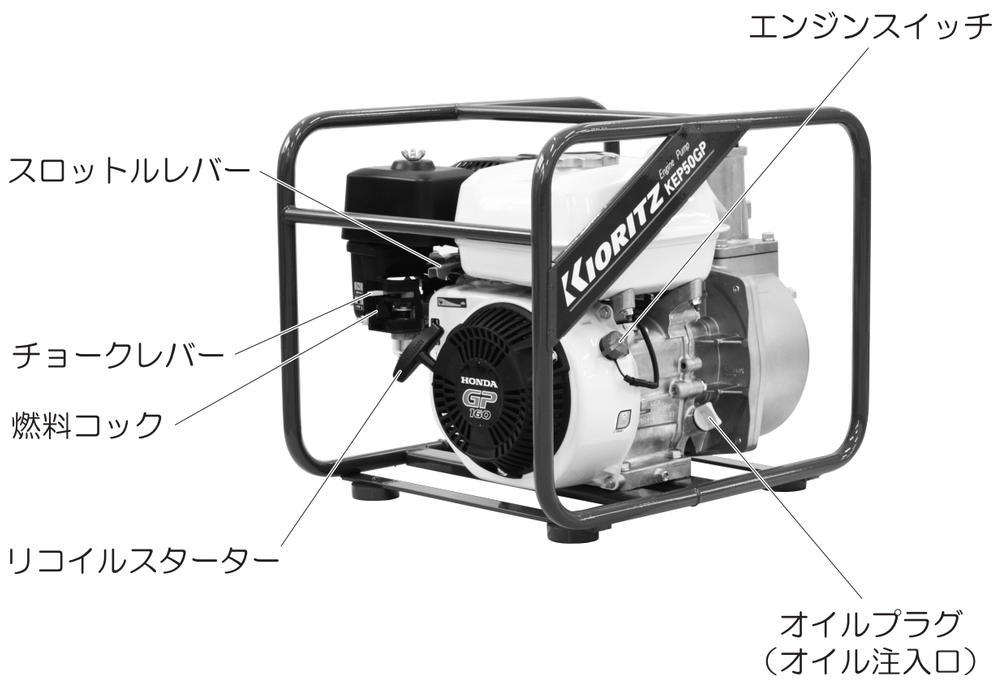
吸入・吐出ホースをポンプに接続する際は、 製品付属のカップリング、ホースバンドを使用し確実に取り付けて下さい。

〈ラベルのメンテナンス〉

- ポンプには、ポンプ銘板が貼付されています。
- ポンプ銘板が見えにくくなった場合や、 はがれた場合にはお買い上げの販売店に注文し、貼りかえて下さい。

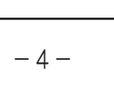
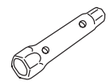
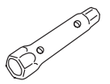
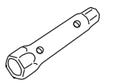
2. 各部の名称





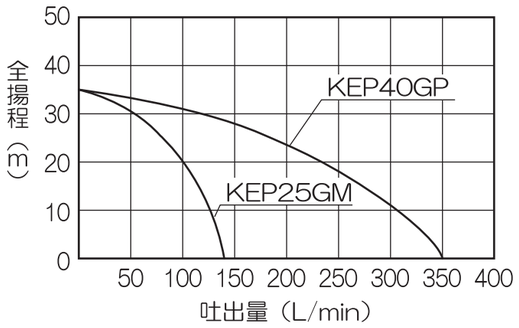
3. 仕様・性能曲線・外形寸法図

仕様

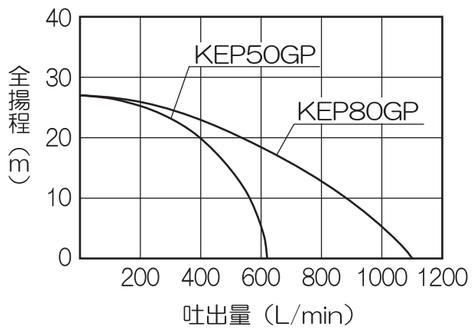
	Model	KEP25GM	KEP40GP	KEP50GP	KEP80GP
ポンプ	吸入・吐出口径	25mm(G1”)	40mm(G1 1/2”)	50mm(G2”)	80mm(G3”)
	全　揚　程	35m	35m	27m	27m
	最大給水揚程	8m			
	最大揚水量	140L/min	350L/min	620L/min	1100L/min
エンジン仕様		三菱 GM82 1.3kW(1.8PS)/3600rpm	ホンダ GP160 2.9kW(3.9PS)/3600rpm	ホンダ GP160 2.9kW(3.9PS)/3600rpm	ホンダ GP160 2.9kW(3.9PS)/3600rpm
重　　量		17.2kg	25.5kg	24.1kg	29.0kg
標準付属品		 ストレーナー（1ヶ）  ワンタッチカップリング(2ヶ)  ホースバンド φ32(3ヶ) φ26(1ヶ)・φ22(1ヶ)  エンジン工具  吸入ホース（3m）  竹の子ニップル 25×20(1ケ) 25×15(1ケ) カップリング（1ケ）  カップリングパッキン(1ケ)	 ストレーナー（1ヶ）  ワンタッチカップリング(2ヶ)  ホースバンド φ48(3ヶ)  エンジン工具	 ストレーナー（1ヶ） ワンタッチカップリング(2ヶ)  ホースバンド φ60(3ヶ)  エンジン工具	 ストレーナー（1ヶ） カップリング（2ヶ）  ホースバンド φ90(3ヶ)  エンジン工具

性能曲線

〈KEP25GM・KEP40GP〉

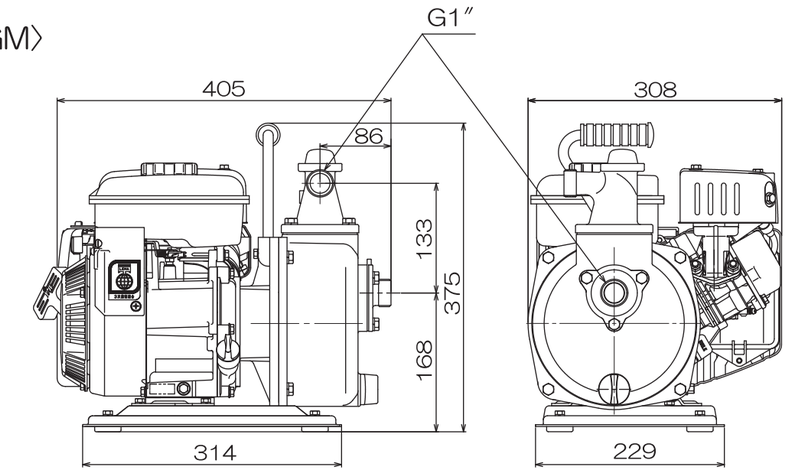


〈KEP50GP・KEP80GP〉

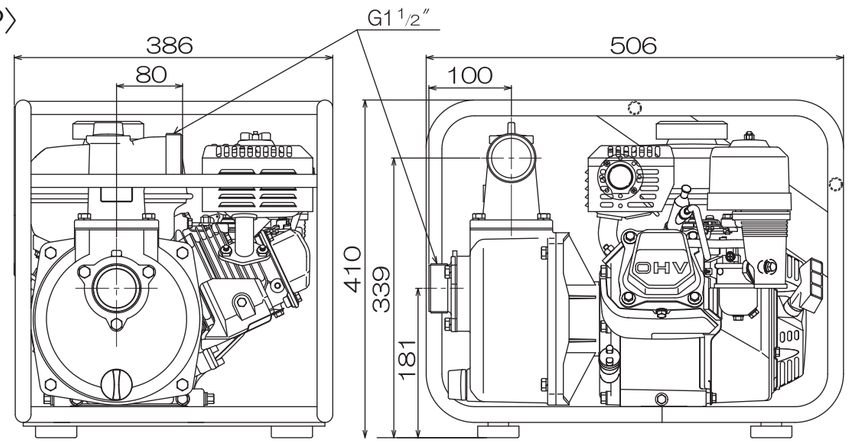


外形寸法図

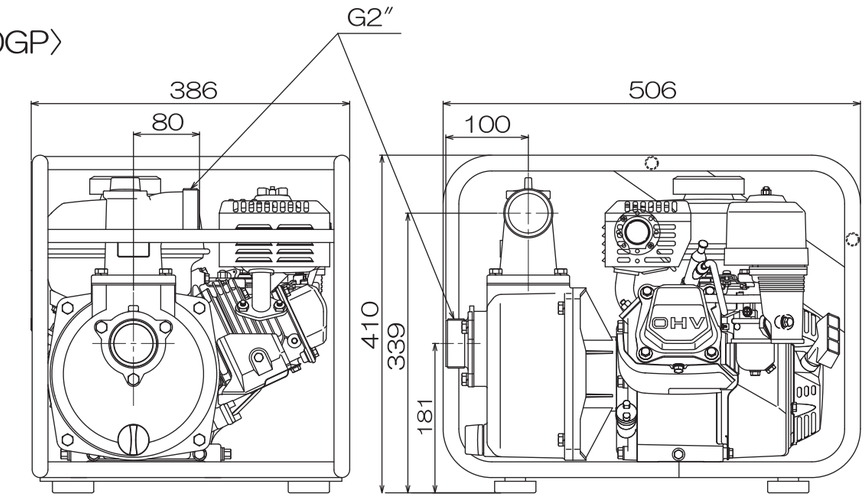
〈KEP25GM〉



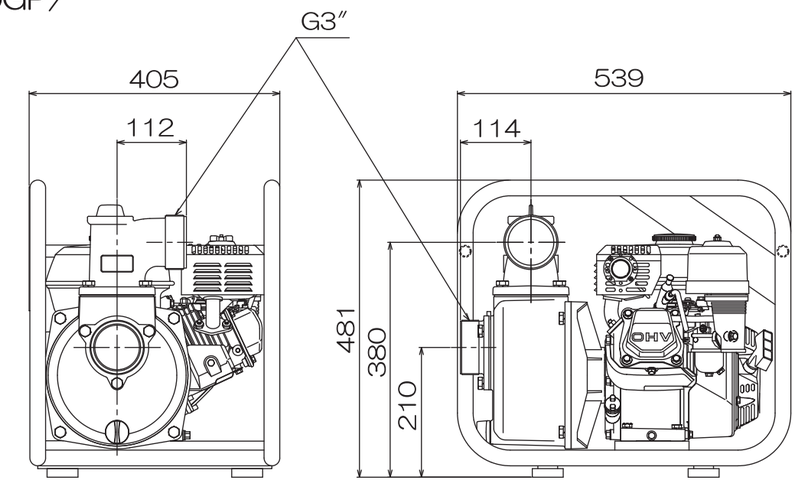
〈KEP40GP〉



〈KEP50GP〉



〈KEP80GP〉



4. ご使用になる前に

1 付属品の確認と準備

P.4 の仕様表に記載されている付属品が揃っているかご確認ください。

2 燃料／エンジンオイル

4サイクルエンジンには、エンジンオイルが必要です。

◎工場出荷時には、エンジンオイルは入っておりません。必ずエンジンオイルを入れてから始動してください。エンジンオイルが入っていない状態でエンジンを始動すると、エンジンが焼き付き、修理困難になります。（エンジンの焼付きは保証外です。）

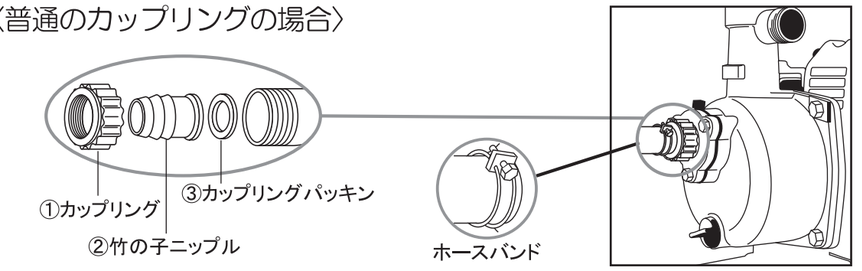
⚠警告	燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないで下さい。 燃料補給タンクから 3m 以上離れ始動して下さい。
⚠注意	エンジンを始動する前には、エンジンオイルが入っているか、または規定量入っているか確認して下さい。エンジンオイルが入っていない、または規定量より多くても少なくても故障の原因となります。
⚠注意	エンジンオイル注入時には、付属のエンジン取扱説明書をよくお読みの上、各作業を行って下さい。
⚠注意	取り扱いを誤ると火災事故の原因となります。火気を絶対に近づけないで下さい。
⚠注意	こぼれた時は、必ずきれいに拭き取って下さい。
⚠注意	エンジンオイルは作業前に必ず点検して下さい。また、定期的に交換を行って下さい。詳しくは付属のエンジン取扱説明書をご覧下さい。
⚠注意	エンジンオイルの注油・補給・交換の際は、必ずエンジンを停止してから行って下さい。停止直後はオイルの温度が高くなっていますので注意して下さい。

燃料は **自動車用無鉛ガソリン** を使用して下さい。

3 カップリングの取り付け方

⚠注意	機種によって付属部品は異なります。 ご使用になる口径をご確認の上、必要な部品を取り付けて下さい。
⚠注意	吸入側のホース口径を変えて使用することはできません。 吸入不良の原因となります。

〈普通のカップリングの場合〉



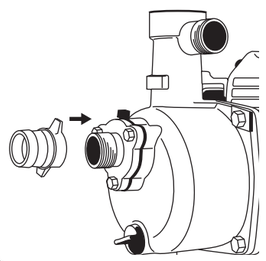
⚠注意	カップリングは必ず①→②→③の順に取り付けて下さい。パッキンの取り付け順番を誤ると、エア吸い込みの原因となり水を正常に吸い上げることができません。

〈ワンタッチカップリングの場合〉

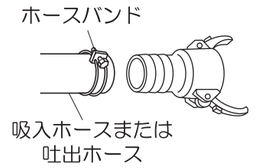


1 ①カムロック本体、③カムロックタケノコクミにそれぞれパッキンが入っていることを確かめてください。

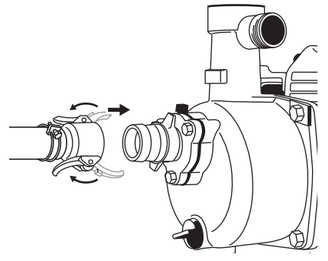
2 ポンプの吸入口か吐出口に①カムロック本体を取り付けてください。



3 ホースとカムロックタケノコを取り付けてください。



4 ①カムロック本体に、③カムロックタケノコクミを差し込み、羽根部分をホース側に固定してください。

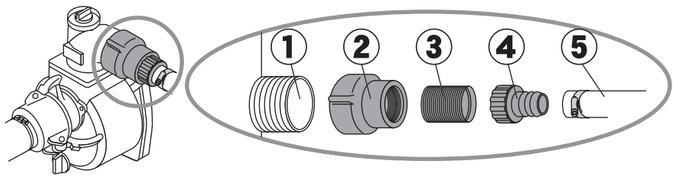


ホース口径の落とし方

⚠注意	ソケット・ニップルの接続部は、必ずシールテープ等で接続して下さい。

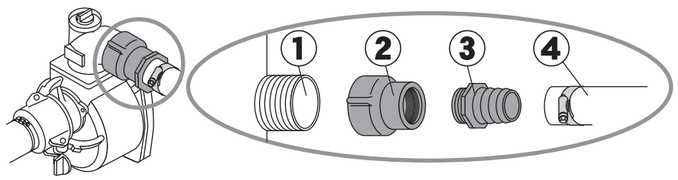
⚠注意	機種によって付属部品は異なります。ホース口径を変更する場合等、付属部品のみでのホース接続ができない場合は、必要なパーツをホームセンター・農機店などでお買い求め下さい。

例1 口径50mmのポンプで15mmのホースを使用したい場合



① ポンプ〈50mm〉 ▶ ② 鉄製異形ソケット〈50×25mm〉 ▶ ③ 鉄製ニップル〈25mm〉 ▶ ④ カップリングクミ〈25×15mm〉 ▶ ⑤ ホース〈15mm〉

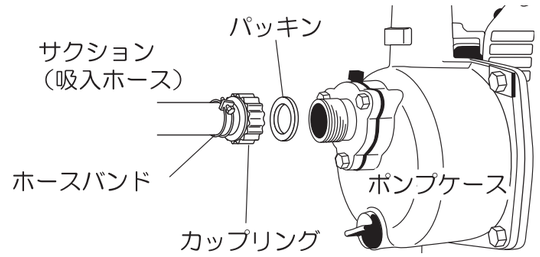
例2 口径50mmのポンプで40(38)mmのホースを使用したい場合



① ポンプ〈50mm〉 ▶▶▶ ② 鉄製異形ソケット〈50×40(38)mm〉 ▶▶▶ ③ タケノコニップル〈40(38)mm〉 ▶▶▶ ④ ホース〈40(38)mm〉

4 吸入ホースの接続は確実に

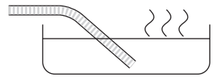
呼び水口より注水し、運転して揚水しない場合は、ほとんど吸入ホースの接続不良が原因で、吸入側から空気が混入して揚水しません。
揚水不能の場合は、まず吸入ホースの接続をもう一度確認の上、運転して下さい。



⚠注意

サクションホースは奥までしっかり締め付けてください。
エア咬み混みによる吸入不良を防ぐため、以下の手順でしっかり取り付けてください。

①サクションホースを
熱湯につけて※柔らかくする。

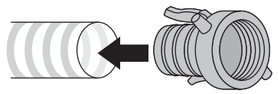


※火傷にご注意ください。また、ドライヤーの温風をあててもやわらかくなります。

②タケノコ部に軽くオイルを塗る



③ホースが柔らかいうちに
タケノコ(カップリングなど)を
差し込む。



④しっかりホースバンドで固定する。

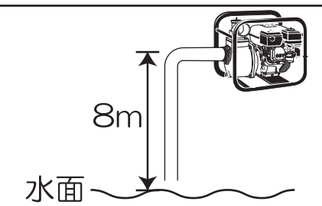


⚠注意

吸入ホースはサクションホースを使用して下さい。
ホースの接続には、製品付属のカップリング・ホースバンドをご使用の上、確実に取り付けて下さい。吸入ホース先端には必ず付属のストレーナーを取り付けて下さい。

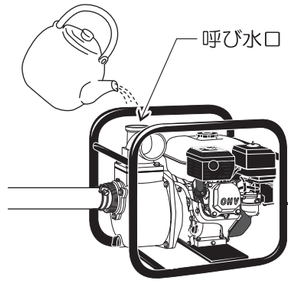
⚠注意

吸上げ高さは8m以内でご使用下さい。
それ以上の高さでは
吸い上げることができません。



5 呼び水は忘れずに

このポンプは自吸式ですので、運転前には必ず呼び水口より水を注入して、ポンプ内を満水の状態にして下さい。
呼び水が不足すると、自吸性能が低下します。

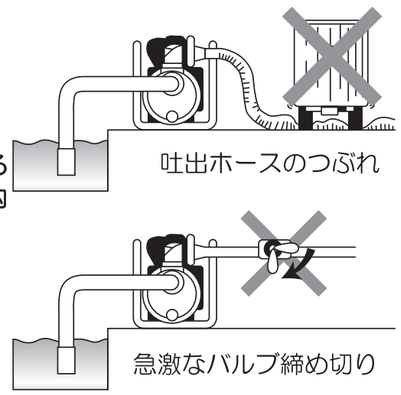


⚠注意	呼び水を入れずに運転されるとシール部分が焼損し、ポンプが自吸しなくなります。

5. 使用方法

1. ポンプ内に呼び水が満水であることを確認して下さい。
2. 吸入ホース先端のストレーナーが水中にあることを確認して下さい。
   （水底が泥・砂状の場合、ポンプに吸入しないよう、ストレーナーを水底より浮かせる等保護措置をとって下さい。）
3. 吐出ホース先端に障害物などがないのを確かめた上、エンジンを始動してください。

⚠注意	ウォーターハンマー現象にご注意下さい。 ポンプ運転中に吐出ホースを踏んだり、吐出側のバルブを急激に締め切ったりすると、瞬間的に大きな圧力がポンプケース内にかかります。 これはウォーターハンマー現象と呼ばれ、ポンプ破損の原因となりますので、ご注意下さい。

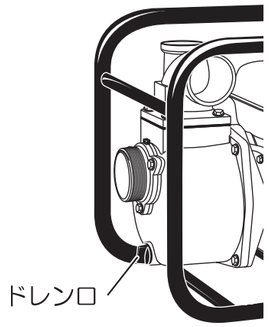


⚠注意	エンジンの操作方法ならびに注意事項については、同梱されている エンジンの取扱説明書をお読み下さい。

6. 使用後の注意

1. 使用後の排水を確実に

⚠注意	冬期にて0℃以下になりますと、ケーシング内の水が氷になり、ポンプを破損させるおそれがありますので、使用後は必ずポンプケース下部のドレンロより排水して下さい。



2. 長期保存をする時は
   30日以上、ポンプを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良、または運転不良にならないように燃料を燃料タンクやキャブレターから抜き、湿気をさけて保管して下さい。
   ※エンジンの詳細については、エンジンの取扱説明書を熟読して下さい。

⚠注意	燃料は非常に引火しやすいため、取扱時には火気をさけ、タバコは吸わないで下さい。

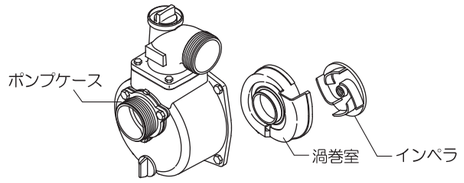
⚠注意	使用後は必ず燃料を使いきり、長期間タンクに燃料が残らないようにして下さい。燃料が残っていると、次回使用時正常にエンジンが始動しません。

7. 故障と処置

症 状	考えられる原因	処　　置
リコイル スターターが 引けない、 または重い	古い燃料使用によるエンジン不調	燃料を入れ替え改善が行われない場合、修理
	エンジン内のサビ付き	修理
	エンジンの焼付き	修理
	インペラの固着	分解掃除 ⇒ **処置①**
	インペラに異物がつまった	分解掃除 ⇒ **処置①**
水量が少ない	吸入側にてエアーの混入	吸入側の配管チェック ⇒ **処置②**
	エンジンの出力低下	点検・修理
	メカニカルシールの損傷	メカニカルシールの交換(修理)
	吸入揚程が高い	低くする
	吸入パイプが細いまたは長い	太くまたは短くする
	水路の漏水	漏れ止めをする
	インペラに異物がつまった	分解掃除 ⇒ **処置①**
	インペラの磨耗	インペラ交換(修理)
吸い上げない	吸入側にてエアーの吸い込み	吸入側の配管チェック ⇒ **処置②**
	ポンプケース内の呼び水不足	呼び水をする⇒**P.11 呼び水は忘れずに参照**
	ドレンロのプラグの締め付け不良	締め付ける ⇒ **P.12 使用後の注意参照**
	エンジンの回転不良	エンジンの取説を参照
	メカニカルシールの焼損（図①）	メカニカルシールの交換(修理)
	吸入ホースがサクションホースではない	サクションホースを使用する
エンジンが 始動しない	キャブレターが詰まっている	修理
	プラグかぶり	プラグ点検・交換⇒ **処置③**
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの洗浄(エンジン取説参照)
	エンジンオイルの入れすぎ（4サイクル）	適量にする
	エンジンオイルが足りない（4サイクル）	オイルアラート※がはたらいている ※オイルが適量でない場合、エンジンを保護するために始動しないようにする機能
	上記を確認しても改善がみられない	エンジン内部部品の損焼(修理)
マフラーまたはエアクリーナーからオイルもれ（4サイクル）	エンジンを転倒させたことによるオイルもれ	修理

処置①

インペラの異物を取り除いて下さい。
（インペラは取り外さないで下さい。）



処置②

吸入側の配管チェック

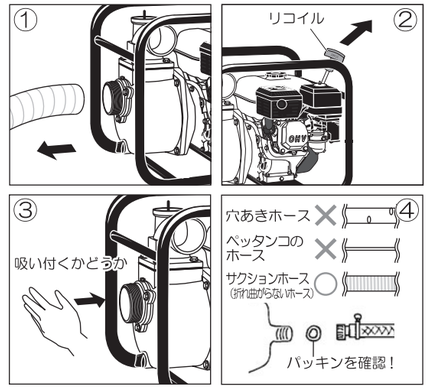
吸い上げない・水量が少ない場合、その多くが
吸入側ホースのエア吸い入みが原因です。
この場合下記の手順で確認して下さい。

①吸入ホースを外す。

②呼び水を入れた状態でエンジンをかける。

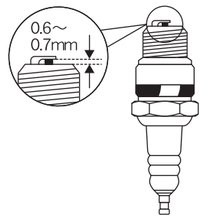
③吸入口に手をくっつけて、約30秒間待つ。
手が吸い付く感じがあればポンプ側の問題でなく、
ホースの接続不良です。

④再度パッキンが入っているか（P.8）、
吸入ホースに穴がないか、サクションホースが奥まで
入っているか（P.10）などご確認下さい。



処置③

◆プラグの点検・清掃をしてください



点火プラグのすき間は
正しいですか?
プラグすき間は0.6～0.7mmです。
正しくないときは調整してください。

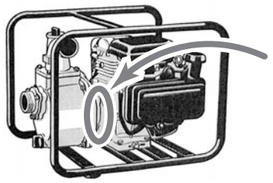
プラグがぬれたり、
汚れたりしていませんか?
ぬれているときや汚れているときは
布きれなどで拭いてください。

・点火プラグの清掃や、すき間調節をしてもエンジンがかからない場合は、新しいプラグに交換して下さい。

⚠注意	プラグは機種によって異なります。エンジン取説をご確認下さい。

※スパークプラグの火花を確認する発火テストはお買い求めの販売店に依頼してください。

図①



ポンプとエンジンの間（○印下部）から
水もれが発生したときは
メカニカルシールの焼損によるものです。

販売店へ修理・点検をご依頼下さい。

⚠注意	ご自分で取説記載以外の分解・修理は、絶対にしないで下さい。 点検・修理は販売店または最寄りの弊社サービス工場へご依頼下さい。